

# 小学校1年生 スタートカリキュラム4月～7月

## 各教科における学習環境の工夫例

小学校低学年は、幼児期の教育を通じて身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ、児童の資質・能力を伸ばしていく時期です。したがって、授業者は、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かい、さらに伸ばしていくことができるようにすることが重要です。そこで、「環境を通して行う教育」である幼児期の教育の特性を生かし、小学校において、児童が「主体的な学びの姿」を発揮できるための、①物的環境、②人的環境、③空間的環境の工夫を紹介します。

### 人的環境

- 学習を進めながら、学習のゴールイメージをもたせる発問をする。  
「この学習ではこんなことができそうだね」「どんなことやってみたい？」
- 課題解決のための見通しをもたせる発問をする。  
「これをするには、どうすればいい？」「これをやるには、何が必要かな？」
- 児童の言動に対して、認めたり褒めたりする評価の言葉がけをする。  
「これはこういうことなんだね。」  
「こういうふうに考えるといいんだね。」

### 物的環境

- 教材の掲示  
単元の流れを見通すことで、思考の継続につながったり、文章構成に気付いたりする。

### 物的環境

- 作業スペースの設置  
希望や疑問から児童の活動が広がり、課題が生まれやすくなる。

### 作業スペース

### ロッカー

### 物的環境

- 児童の「書きたい」という気持ちを表現するためのワークシートの使用  
児童の自由な発想のもと、登場人物の気持ちを自分の言葉にし、その気持ちの変化を捉えるときに有効。友だちの考えとの比較にも生かすことができる。

### 物的環境

- 文具類、本、図鑑の設置  
児童がすぐ手に取れる所に置くことで、興味・関心を引き出したり、課題や疑問点を解決したりするきっかけとなる。

### 空間的環境

- 学習時間の工夫  
20分間の学習（モジュール学習）  
90分間（2校時）の学習  
合科学習
- 学習形態の工夫  
班活動、グループ活動、コの字型発表など

スタートカリキュラム（4月～7月）における、児童が「主体的な学びの姿」を発揮できるための学習環境の工夫

★ 学校と仲良くなろう

安心できる学習環境の工夫を

★ こんなことやってみたいな

自分で課題を見つけられるような学習環境の工夫を

★ こうしてみたらできるかも

課題解決のための方法を考えられる学習環境の工夫を

★ もっとこんなことできないかな

自分たちで学習内容を広げられる学習環境の工夫を

